

2018年8月9日

厚生労働大臣
加藤 勝信 殿

接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（お願い）

小児がん患者家族会一同（裏面参照）
代表）公益財団法人がんの子どもを守る会



がん対策基本計画や小児慢性特定疾病対策、難病対策等で小児がんに対する前向きな取り組みが進んでいることは、患児・家族にとって大変喜ばしいことであり、今後、これらの施策がより充実していくことに期待をしております。

昨今、接種済みワクチンの再接種費用を助成する自治体が増えてきていることに、我々小児がん患者家族は注視しております。骨髄移植など造血幹細胞移植前に、予防接種もしくは自然感染によって免疫の得られた抗体が失われてしまうことは、「造血幹細胞移植ガイドライン 予防接種」（造血幹細胞移植学会 2008年）にもあるように、広く知られていることです。また、化学療法後でも抗体価が消失したり、早期に低下することも指摘されて（「よくわかる小児がん経験者のために一より良い生活の質（QOL）を求めて」医薬ジャーナル社 2011年）います。また、小児がんの経験者は「治療中及び治療後一定期間、原疾患や治療に伴う免疫不全になるため、感染症に対する予防対策が生活上の重要な課題」（同上の文献）であり、ワクチンの再接種は必須になります。しかしながら、現在は多くの自治体で高額な自己負担となり、患者家族にとっては再接種の大きな障壁と言わざるを得ず、以前より当会も要望を重ねておりました。その中で、今般の助成事業を開始する自治体の増加、特に今年度より大阪府で事業予算（実施主体は市町村）がついたことは大きな進展と受け止めております。

そこで、小児がんなどの治療を受けたことで抗体価が消失・低下している人に対する予防接種の再接種費用助成を国が主体となって、実施頂けるよう切にお願いする次第です。既に助成が開始されている自治体の多くは、移植児のみに限定されており、その他の小児がんの治療によって抗体が失われた子どもについては対象外となっていることが多いのが現状です。そのため、易感染状態になりやすい小児がんの子ども達が健やかに安心して生活できるようにするためにも、広く小児がんなどの治療を受けた子ども達にも対象を広げ、助成を実施していただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

記

小児がん親の会として以下を要望いたします。

- ①治療などでタイミングを逸してしまった場合の接種の対応
- ②骨髄移植など造血幹細胞移植によって抗体を失った患者への再接種の助成
- ③化学療法など治療によって抗体を失った患者への再接種の助成

以上

要望団体<小児がん親の会・経験者の会>

- 小児がん患者家族の会 あすなろクラブ (国立成育医療研究センター親の会)
岡山県小児血液・腫瘍患者の親の会 あゆみの会 (岡山県)
腫瘍性疾患児とともに歩む会 かがやく未来 (京都府立医大附属病院親の会)
さくらの会 (慶應義塾大学病院小児科で血液腫瘍疾患の治療経験がある患者と家族の会)
さくらんぼの会 (兵庫県立こども病院血液腫瘍内科親の会)
SMILE (すみれ) の会 (新潟大学病院小児科親の会)
きょうと たんぼぼの会 (京都大学附属病院小児科親の会)
菜の花の会 (東京都立小児総合医療センター患者家族の会)
にじいろ電車 (東京女子医大病院 脳神経外科 家族の会)
まるっけ会 (岐阜市民病院小児血液疾患センター患児家族会)
みらい (福岡大学病院小児科親の会)
認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ (千葉)
わたぼうしの会 (岐阜大学病院親の会)
横紋筋肉腫 家族の会 (全国)
近畿小児脳腫瘍の家族会・経験者グループ miracle Brain (全国)
小児脳腫瘍の会 (全国)
神経芽腫の会 (全国)
網膜芽細胞腫の子どもをもつ家族の会 すくすく (全国)
RB ピアサポートの会 (全国網膜芽細胞腫の会)
ささかま (宮城 小児がん経験者の会)
九州沖縄広域小児がんネットワーク QOL+ (九州沖縄広域 小児がん経験者の会)
Heart t♡Heart (広島 小児がん経験者の会)
FellowTomorrow (全国 小児がん経験者の会)
公益財団法人がんの子どもを守る会
北海道支部/宮城支部/福島支部/長野支部/新潟支部/福井支部/富山支部/関東支部/静岡
支部/東海支部/関西支部/岡山支部/広島支部/香川支部/愛媛支部/高知支部/九州北支部
/九州西支部/熊本支部/宮崎支部/沖縄支部